

7 月 25 日から 27 日にかけて、白山の南竜ヶ馬場に 13 期から 17 期までの 13 名が集まりました。

参加者

13 期 柴田茂樹・柴田訓子、14 期 清家雅幸、15 期 上馬康生・奥名正啓・坂尻忠秀・佐野哲雄・舟田節子・増田富雄、16 期 中野淳一・山内政司、17 期 小間八郎・小間幸美

計 画

近年、同期の坂尻さんと山歩きやスキーをよくしています。白山周辺のみならず昨年は雪の西穂高独標へ、今年は連休明けに剣御前小舎に泊まり立山三山を、6 月上旬に八ヶ岳の赤岳から硫黄岳を歩きました。山で泊まった時など、ワングル学生時代のことがよく話題となります。そこで 15 期の前後の期で白山の南竜ヶ馬場に集まり、夏山を楽しむとともに旧交を温めたり親交を深めたりできればと 2 人で計画したわけです。ケビン 3 室貸し切り 3 日間出入り自由とし、2 日目は別山や白山の山頂など希望するところへ一緒に行けるようにしました。

実 施

それぞれの期の中で連絡してもらい参加者を募ったところ、当初 16 名からの申し込みがありましたが、仕事で都合がつかない、直前に同居家族の新型コロナ感染、体調不良で下山のそれぞれ 3 名を除く 13 名となりました。

7 月 25 日

別当出合へは各地から自家用車に相乗りで集まり、到着時刻により 3 組に分かれて出発しました。曇りから霧の天気のため、センジュガンピやタマガワホトトギス、ハクサンフウロ、ニッコウキスゲなどの花の前で立ち止まり、写真を撮りながらゆっくり登りました。

南竜に到着してからはそれぞれ、ケビンで談笑したり、周辺を散策したり、この日から自然解説員として南竜に詰めていた奥名さんの観察会に参加したりして過ごしました。南竜山荘での夕食後にも奥名さんのスライドによる高山植物などの解説活動に参加して、ケ

ビンに戻って談笑にふけりました。なお、小間さん夫妻はこの日は室堂に宿泊でした。



26 日朝、南竜山荘前で

7 月 26 日

前日の天気から打って変わって朝から晴天のなか、行動の用意をして南竜山荘に集まり 6 時からの朝食後、トンビ岩コースへ向かう組と別山へ向かう組、南竜にとどまる組に分かれました。

トンビ岩コースでは、南竜ヶ馬場と別山、荒島岳、御嶽山などを眺め、咲き始めの痛んでいないハクサン



26 日、トンビ岩コースで

コザクラやクロユリ、チングルマなどの高山植物を楽しみながら進みました。トンビ岩まで残雪はなく、万才谷上部の雪渓も後退して、例年に比べ残雪の少なさが目立ちました。

室堂到着後、この日に下山の中野さんと山内さん、エコーラインを南竜へ下る佐野さんと舟田さんと別れ、柴田さん夫妻と 3 人で御前峰からお池めぐりへと向かいました。室堂ではガスっていた御前峰は着くころには晴れ上がり、山頂からの展望、お池めぐりの道沿いに咲く高山植物や逃げないイワヒバリなどを楽しみました。



26 日、白山山頂で



26 日、山頂より大汝峰と剣ヶ峰

別山へは清家さんと坂尻さん、小間さん夫妻が向かい、奥名さんと増田さんは南竜に滞在でした。

この日も南竜山荘での夕食後は、ケビンの1室での談笑が続きました。参加者の昔や今の様々な話に、感心したり共感したり驚かされたりしました。ワンゲルという繋がりの中、個性豊かな各人の人生経験にじみ出る話の連続でした。



26 日、南竜山荘で夕食

7 月 27 日

朝食後、より遠方へ帰る 6 人を 7 時前に見送り、金



26 日夜、南竜ケビンで各人の経験談などを聞く

沢へ戻る 4 人はケビン内の後始末をしてから、あと 1 日自然解説員として南竜に残る奥名さんと別れて出発しました。途中、南竜道と砂防新道の分岐付近ではシモツケソウなどの開花が進んで、2 日前より色づきのよいお花畑となっていました。この日は土曜日で登山者が多く、かなりのスローペースでの下山となり、途中で先行の組と一緒に 11 時半ころに別当出合に着きました。



27 日、砂防新道・南竜道分岐のお花畑

解散後、それぞれ勝山と吉野谷の温泉で汗を流し、昼食をとりながら山行をふり返り、帰路につきました。

おわりに

白山ではよく歩き、南竜ケビンではよく笑って、心身のリフレッシュになりました。70 歳を超えても、みなさん自分に合った歩き方で山を楽しんでいるようです。今回、思い出深い山行ができ、改めて金沢大学ワンダーフォーゲル部の繋がりに感謝するとともに、このような集まりが、これからも続けられたらと思っています。